

# 平成29年度 徳島北高等学校 学校評価結果

保護者の皆様には、日頃から本校教育活動に格別の御支援・御協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、本校では、年度当初に「学校評価計画」を作成し、その計画に基づいて教育活動を展開しております。昨年12月には、保護者・生徒・職員を対象にアンケートを実施し、本年度の成果について検証を行いました。

その概要をまとめましたので御覧ください。今後は、この結果を元に、教育活動の改善に取り組んでまいります。

アンケートに御協力いただいた保護者の皆様、ありがとうございました。

平成30年3月20日

徳島県立徳島北高等学校 校長 長篠 俊文

## 生活習慣・交通安全指導

評価基準(A十分達成できた,B概ね達成できた,C達成できなかった)

### 目標

- ① 生活習慣(服装頭髪の整正, 時間厳守, 挨拶の励行)の確立, 健全な生活態度の育成
- ② 交通ルールへの遵守, 交通安全意識の向上
- ③ 携帯電話等の安全な使い方ができるなどの情報モラルの育成

### 主な方策

- ① 月初めのクラス単位の服装頭髪点検, 学期初めの学年一斉指導を実施するとともに, 全職員による常時指導を徹底する。
- ② 遅刻指導週間を実施するとともに, 多遅刻生徒への指導を徹底する。
- ③ 職員による登校指導や生活委員会を中心とした「あいさつ運動」を充実させる。
- ④ 生徒の交通事故の状況について職員間で共通理解を図り, 生徒の交通安全意識の向上に努める。
- ⑤ 「人権教育ホームルーム活動」や「情報」の授業と連携した情報モラル教育を推進する。

### 数値目標・達成度・評価

① 服装頭髪の再点検指導生徒 0.5%以内	① 0.05%(5名)であった	A
② 遅刻者数 前年度比 10%減	② 18.5%増加した(2学期末現在)。	C
③ 教員による登校指導 月1回以上, 「あいさつ運動」 学期1回以上実施	③ 計画通り実施できた。	B
④ 交通事故発生件数前年度(11件)以下	④ 13件増加した。	C
⑤ 各関係機関と連携し携帯電話安全教室を年1回以上実施	⑤ 計画通り実施できた。	B



### 次年度への改善と方策

- ① 月初めの点検時だけでなく, 常日頃から清潔感のある着こなしができるように連携協力を図りたい。
- ② 雨天時や早朝補習がない日に遅刻が増加するといった傾向は解決されなかった。
- ③ 「あいさつ運動」の実施時期・時間を検討したい。
- ④ 事故の状況や生徒の状況を分析し, 改善策を考えたい。
- ⑤ 関係機関の協力を得ながら生徒の実態把握に努めたい。

## 学力向上

### 目標

- ① 主体的な学習習慣の確立
- ② 確かな学力の育成

### 主な方策

- ① 進路説明会等で, 家庭学習の現状とその効果について説明し, 保護者に協力を要請する。
- ② 生活学習記録表や生活実態調査を通して生徒一人一人の実態の把握に努めるとともに, 保護者との連携を図る。
- ③ 課題や確認テストを適宜実施し, 授業内容の理解, 定着を図る。
- ④ 補習の大切さを理解させ, 補習の出席率を高める。

数値目標・達成度・評価		
① 家庭学習時間(塾等での学習を含む)1時間以上の生徒75%以上、「(学年)+1」時間以上の生徒50%以上	① 1時間以上89.3%(休日89.4%),「(学年)+1」間以上52.8%(休日66.0%)であった。	A
② 「9時までに家庭学習を始める」習慣が身についている生徒70%以上	② 67.9%であった	B
③ 授業評価アンケートにおいて、「学校の授業内容をよく理解している」生徒80%以上	③ 74.3%であった	C
④ 1・2年生の補習出席率95%以上	④ 95.4%であった	B



次年度への改善と方策		
①②③ 1年生1学期の指導が大きいと思われる。学年や教科と連携して、進路意識の高揚と家庭学習の重要性を繰り返し伝える。		
④ 学年や担任と連携して、早めの指導を行う。欠席が多い生徒には、放課後学習を実施する。		

## 進路指導・キャリア教育

目標		
① 主体的な進路決定・進路目標の設定をめざしたキャリア教育の推進		
② 生徒の個性や創造力を伸長させることによる進路希望の実現		
③ 地域社会に貢献できる人材の育成に向けたキャリア教育の推進・自主的な行動力の育成		

主な方策		
① あらゆる機会を通じて、自分の将来の生き方について考えさせるとともに、体験活動の広報に努める。		
② 「若楠」や「進路ニュース」を活用し、生徒や保護者への進路情報の提供を適切に行い進路意識の高揚を図る。		
③ 就職ガイダンスや公務員セミナーなどの実施を通して、就きたい職業を見だし、その実現に継続的に努力できる行動力を育成する。		

数値目標・達成度・評価		
① 1,2年次にオープンキャンパス等の体験活動に1回以上参加した割合80%以上	① 88.7%であった。	A
② 2年生の11月進路希望調査で、進路目標が明確になっていると回答した生徒の割合90%以上	② 進路目標を持っていると全員が回答した(1月調査)。	B
③ 就職希望者の就職未決定者数ゼロ(2学期末)	③ 1月末に全員が就職先を決定できた。	B

次年度への改善と方策		
① オープンキャンパスについての情報を早めに提供して参加を促す。		
② キャリア教育を充実させ、校外の研究会や講座などへの積極的な参加を促す。		
③ 就職希望者へのフォローアップ体制やプログラムが必要と考えられる。		

## 心とからだの健康

目標		
① 心やからだの健康についての関心の向上と、課題解決に向けた実践力の育成		
② 生徒が心身ともに充実した学校生活を送れるための支援の充実		
③ 公共物をマナーを守って利用できるなどの公共心の育成		
④ 福祉的な募金活動への協力		

主な方策		
① 生徒保健委員会活動を通して保健意識の啓発・向上を図る。		
② 生徒に関する職員の共通理解を高めるとともに、関係機関とも連携を密にする。		
③ 公共心向上のための広報活動を推進するとともに、チェック体制を整える。		
④ 厚生委員会活動の充実を図る。		



数値目標・達成度・評価		
① 「自分の心や健康に関心を持ち、健康な生活を心がけている」生徒の割合80%以上	① 81.1%であった。	B
② 「学校は生徒の安全や健康管理に十分注意している」及び「学校では健康や安全に配慮した指導が行われている」と答えた生徒・保護者ともに80%以上	② 「健康管理に十分注意している」と回答した生徒82.2%,保護者87.6%,「配慮した指導が行われている」と回答した保護者86.1%であった。	B
③ セミナーハウスについて、適正に利用できたとの回答割合を90%以上とするとともに、大掃除の年2回実施	③ 90%以上が正しい指導ができていると回答した。2学期末に大掃除を実施し、2月にも実施予定である。	B
④ 福祉的な募金活動への協力 年2回以上	④ 「複十字シール運動」、「手足の不自由な子どもを育てる運動」に協力した。	B

次年度への改善と方策		
①② 自己管理のできる生徒の育成のため、実施3年目となる「生活改善プロジェクト」を、家庭の協力を働きかけて進めて行きたい。		
③ さらに適正な利用を進めるため、利用マニュアルを作成中である。寝具のクリーニングについて計画中である。		
④ 厚生委員会を、より計画的に活動できるように取り組みたい。		

## 環境・防災教育

### 目標

- ① 学校内外の環境美化及び環境問題に取り組む態度と実践力の育成
- ② 身近に潜む危険から自らの身を守るのみならず、災害発生時及び事後に進んで他の人々や地域の安全に役立てる人材の育成

### 主な方策

- ① 日々の清掃活動を充実させるとともに、清掃ボランティア活動を積極的に実施する。
- ② 避難訓練・防災訓練を実施することにより、防災に対する実践力と行動力を高める。
- ③ 講演会や防災学習を通じて、学校全体としての防災意識の向上を図る。

### 数値目標・達成度・評価

① 清掃ボランティア活動 学期1回以上実施	① 多くの生徒が参加して実施できた。	A
② 清掃が行き届いていると実感する生徒の割合80%以上	② 「美化に協力できている」生徒80%、「環境問題を意識している」生徒60%であった。	B
③ 地震津波避難訓練・火災避難訓練・水難事故防止講演会年1回実施	③ 計画通り実施できた。	B

### 次年度への改善と方策

- ① 参加者は毎年増えており、行事として定着してきている。北高ロード商店街との連携を深め、内容を充実させたい。
- ② アンケートの質問をより具体的なものにしていく必要がある。
- ③ 行事の偏りを解消するとともに、あわっ子防災士を有効に活用していきたい。

## 国際理解教育

### 目標

- ① 国際交流に積極的に取り組むことで、外国のことに興味・関心を持つ生徒の育成
- ② 異文化の中で生活できる機会の提供
- ③ 海外姉妹校との活発な交流



### 主な方策

- ① 外国人の外部講師等を活用し、異文化講演会を実施する。
- ② 外国からの訪問団を積極的に受け入れるとともに、派遣プログラムなどの情報提供に努める。
- ③ Eメールやスカイプ等を用いた姉妹校交流を充実させる。

### 数値目標・達成度・評価

① 異文化学習の機会を年2回以上提供	① 2回の異文化学習を実施した。	B
② 海外語学研修参加者80名以上	② 103名が参加した	A
③ ニュージーランド・ドイツ・タイの姉妹校とのEメールなどをを用いたグループ交流を1回以上実施	③ 個人交流を複数回行った。	B

### 次年度への改善と方策

- ① 異文化の学習機会ではなく、異文化に関する生徒の意見発表会「異文化交流意見交換会」を設定したい。
- ② 生徒や保護者にとって、より安価で安心して安全に海外研修ができる状況を検討していきたい。
- ③ 次年度は、4月にニュージーランド姉妹校が来校するので、その際にICT機器を用いてどのような交流ができるのかを検討したい。

## 人権教育

### 目標

- ① 日々の教育活動を通じた生徒の人権意識の高揚
- ② 人権教育の充実を図り、全職員で取り組むいじめ防止
- ③ 研修機会の充実による職員人権意識の啓発・高揚

### 主な方策

- ① 生徒が主体的に参加・体験できるホームルーム活動(人権)を実施する。
- ② 教育活動全体を通じて、互いの人格を尊重し合える校内環境を整える。
- ③ 校外人権研修会への参加者を拡充させ、校内人権研修会(講演会等)を充実させる。

### 数値目標・達成度・評価

① ホームルーム活動(人権)において、「人権意識が高まった」生徒の割合 80%以上	① 昨年より8ポイントあまり減少し、75.2%であった。	C
② 「人権委員会だより」を年6回以上発行し、読んでいる生徒の割合60%以上	② 年6回発行し、読んでいる生徒の割合は47%であった。	C
③ 「ホームルーム活動や教科指導において、人権課題についての実践ができた」と答えた職員の割合90%以上	③ 94.2%の職員が「実践できた」と回答した。	B

### 次年度への改善と方策

- ① ホームルーム活動で扱う内容が多く、表面的な理解にとどまっているかもしれない。終業のチャイムにとらわれることなく、生徒の人権意識の高揚を図れるようなホームルーム活動を考えていきたい。
- ② 「人権委員会だより」を人権委員に朗読させたり、内容・紙面のスタイルについて再考するなどの検討をしたい。
- ③ 人権教育の最近の動向を知るために、校外の研修に参加できるように取り組み、実践に役立つような研修の充実を図りたい。

### 学校行事・生徒会活動・部活動

#### 目標

- ① 学校行事(学校祭・球技大会等)の活性化を通じた自主的・自律的な行動力の育成
- ② クラスや部活動だけでなく幅広い人間関係の構築
- ③ 部活動の活性化を通じた個性・創造性の伸長と、何事にも前向きに取り組む能力や態度の育成
- ④ 国際的な視野を広げ、社会に貢献する姿勢の育成

#### 主な方策

- ① 生徒会役員が中心となり、全校生徒が各行事の企画・運営に取り組めるようにする。
- ② 学校行事の事前・事後にアンケートを実施し、今後の取り組みに生かす。
- ③ 新入生対象の部活動紹介を充実させる。各部活動で自主的な活動ができるよう工夫する。
- ④ 国際的視野の広がりにつながる講演会や社会貢献に通じる活動を計画する。

#### 数値目標・達成度・評価

① 「学校行事に自主的・積極的に取り組むことができた」と答えた生徒の割合90%以上	① 86.9%であった。	B
② 「生徒は望ましい人間関係が構築できている」と答えた職員・保護者の割合85%以上	② 職員88.4%、保護者86.3%であった。	A
③ 「部活動は学校生活を充実させるものとなっている」と答えた生徒の割合80%以上	③ 76.1%であった。	B
④ 地球市民講座(講演会)を実施するとともに、社会貢献活動を年3回以上実施	④ 地球市民講座を実施できた。生徒会が中心となって3回実施できた。	A

#### 次年度への改善と方策

- ① 学校祭の日程や、体育祭の種目、予餞会の日程・内容についてより良い方向性を探していきたい。
- ② 学校行事等で、ホームルームや生徒会などが自主的な活動ができ、生徒同士の人間関係を深められるよう検討したい。
- ③ 部活動参加率は高いが、継続率について検討する必要がある。
- ④ 予算面での課題はあるが、地球市民講座を来年度も開講し充実した内容となるよう準備したい。

### 読書啓発

#### 目標

- ① 図書館利用を通して、読書習慣の育成を図ることによる主体的に学ぶ生徒の育成

#### 主な方策

- ① 進路選択に必要な図書を充実させ、「図書館だより」や壁面掲示で広報する。
- ② 各教科と連携して授業に活用したい本や生徒に読ませたい本を充実させ、図書館利用の推進を図る。
- ③ 図書館の利用状況、貸出状況を適宜知らせる。

#### 数値目標・達成度・評価

① 1人あたりの平均利用回数を昨年度より0.5回以上増	① 1.3回増加した。	A
② 授業での利用を昨年度より5回以上増	② 20回増加した。	A
③ 1人あたりの貸出冊数を0.5冊以上増	③ 0.8冊増加した。	B

#### 次年度への改善と方策

- ①②③ 授業での図書館活用をきっかけに、自主的に図書館に行くことに結びつけたい。また、ホームページの掲載資料や情報提供を工夫したい。



#### 学校関係者評価について

本校では、学校評議員会において学校評価結果を協議いただき「学校関係者評価」としてしています。平成30年3月13(火)本校において開催された学校評議員会では、次のような御意見・御提言がありました。

- ① 交通マナー・モラルの指導を徹底し、関係機関との連携を充実させてはどうか。
- ② 総合的な学習の時間の生徒発表では、個人の得意を生かして役割分担をすることで新たな学びが生まれるのではないかと。
- ③ 特別活動や防災など、さまざまな行事において、地域との交流をさらに深めてほしい。

※ より詳しい学校評価については、3月末に学校ホームページに掲載する予定です。

このリーフレットについてのお問い合わせは、徳島北高等学校 学校評価委員会まで 電話 (088)698-8004